

古気候復元高度化に向けた 動적および静的同化手法比較に関する再考



岡崎 淳史

Okazaki Atsushi

弘前大学大学院理工学研究科
助教

地球温暖化の影響が顕在化しつつある現在、今後気候がどのように変化するかは多くの人の懸念する所でしょう。気候変動メカニズムの理解を目指す分野の一つに古気候学があります。古気候学は、測器観測が存在しない年代の気候を扱うため、何らかの方法でこれを復元する必要があります。本研究は、天気予報で用いられる数理的手法を応用することで正確な古気候復元を可能にする手法を提案した論文です。今後も先端的数理的手法を駆使し、古気候復元だけでなく災害予測精度の向上を目指す研究に取り組んでいきます。